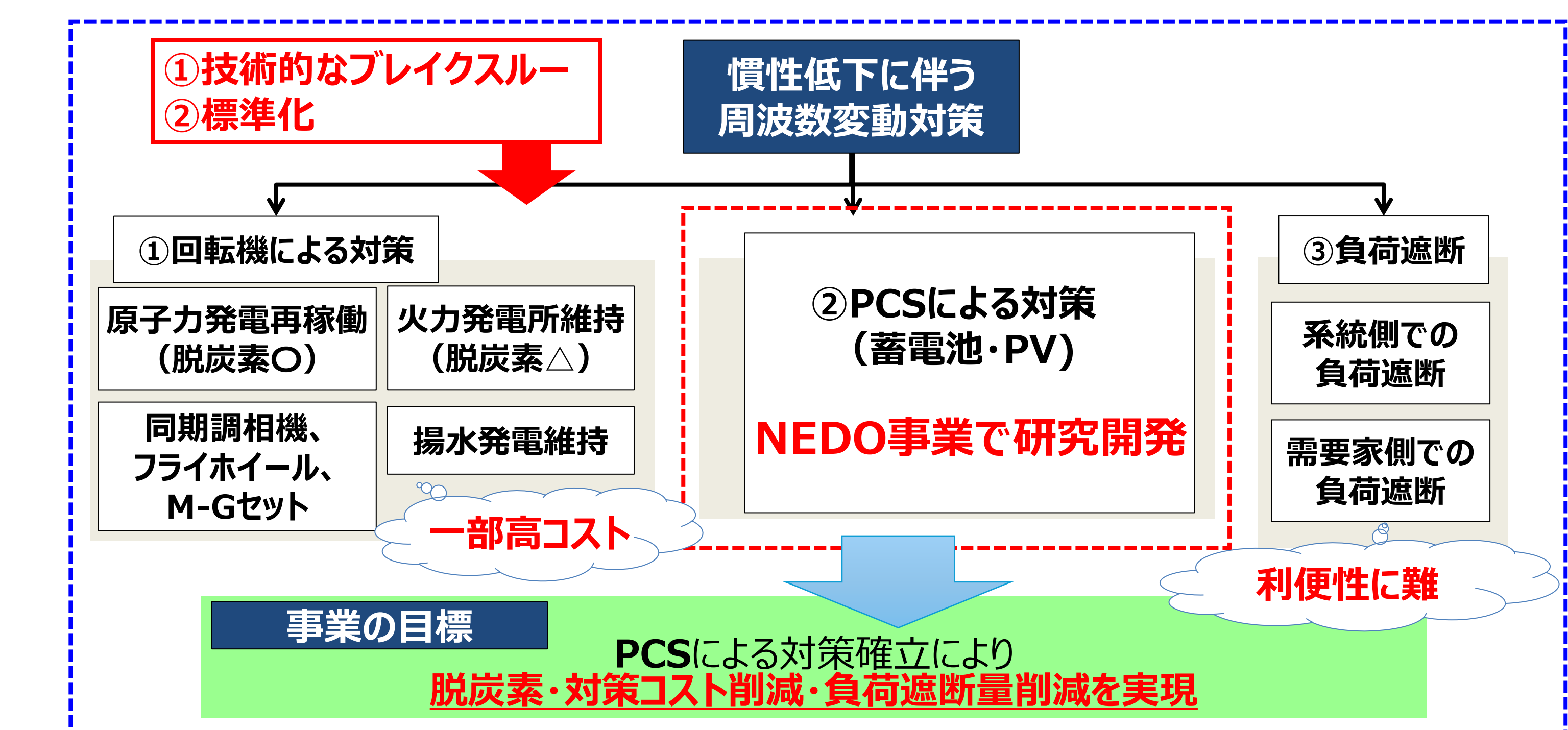
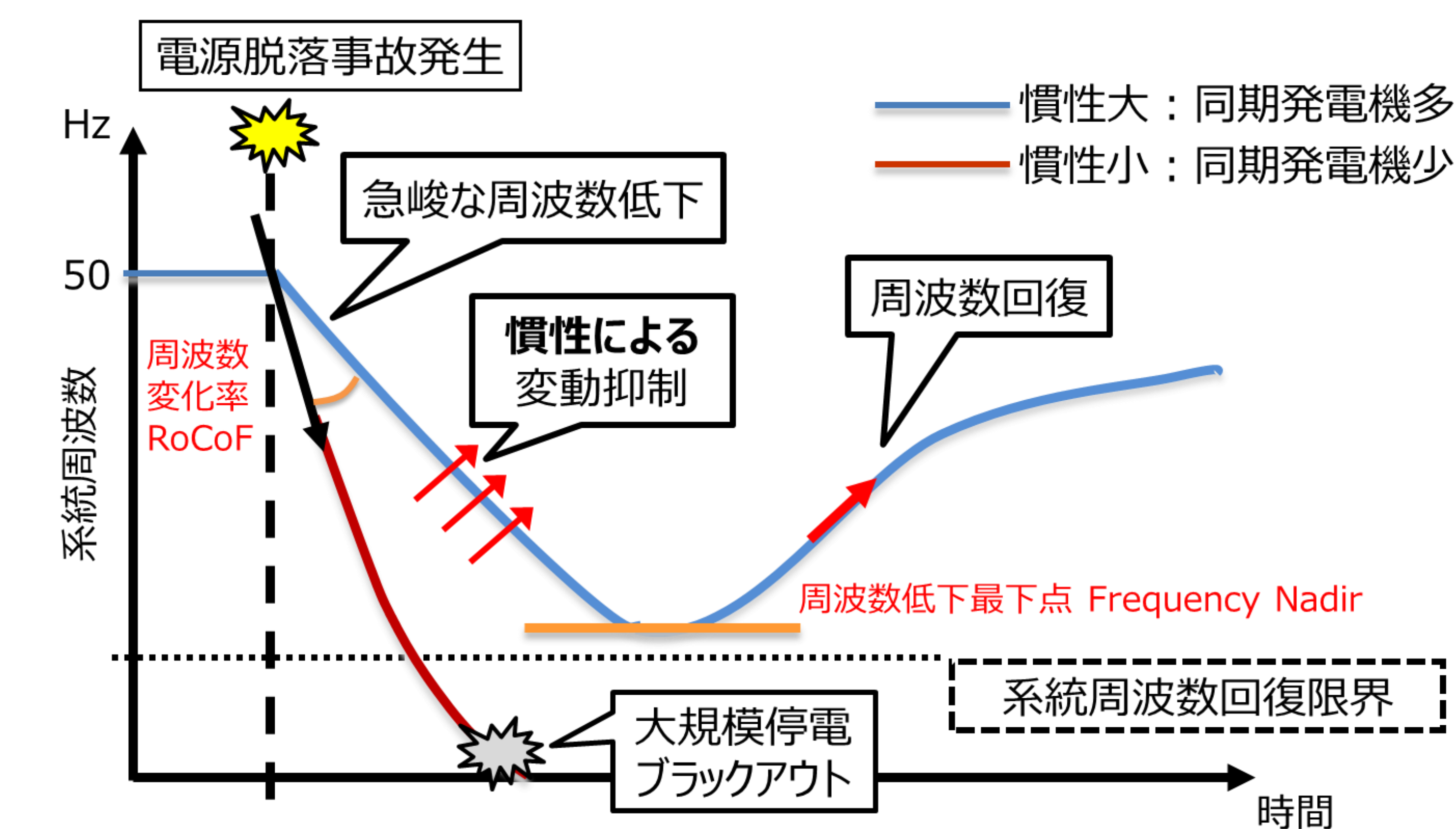


■ 事業の目的・目標

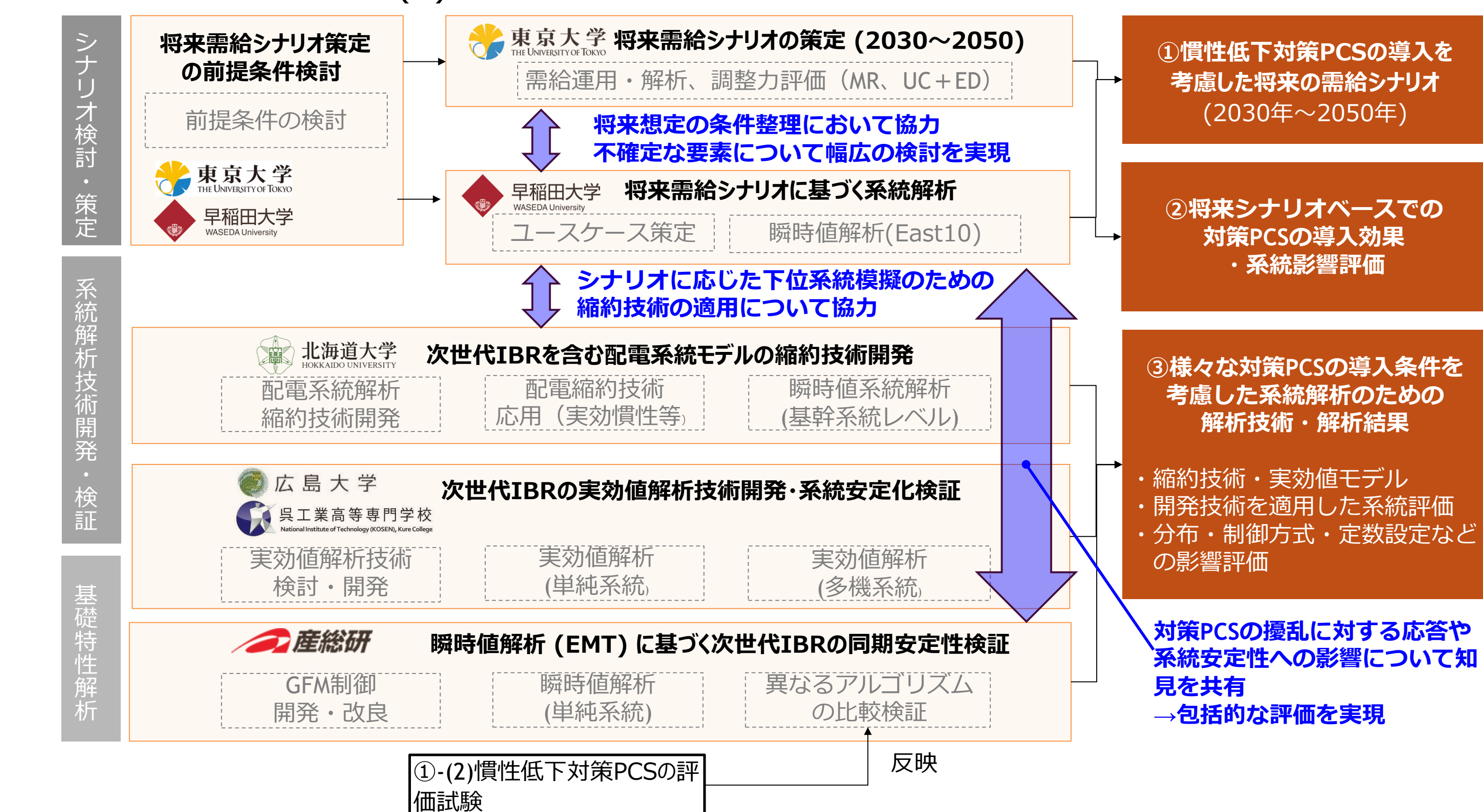
系統慣性が低下した状態で、大規模な電源脱落事故等が発生し周波数が大きく変動すると、周波数低下リレーが動作することで健全な他の電源も解列し、最悪の場合ブラックアウトに至る



■ 実施体制



①-(3)慣性低下対策PCSの導入効果、影響評価検討



■ 2024年度までの成果と課題

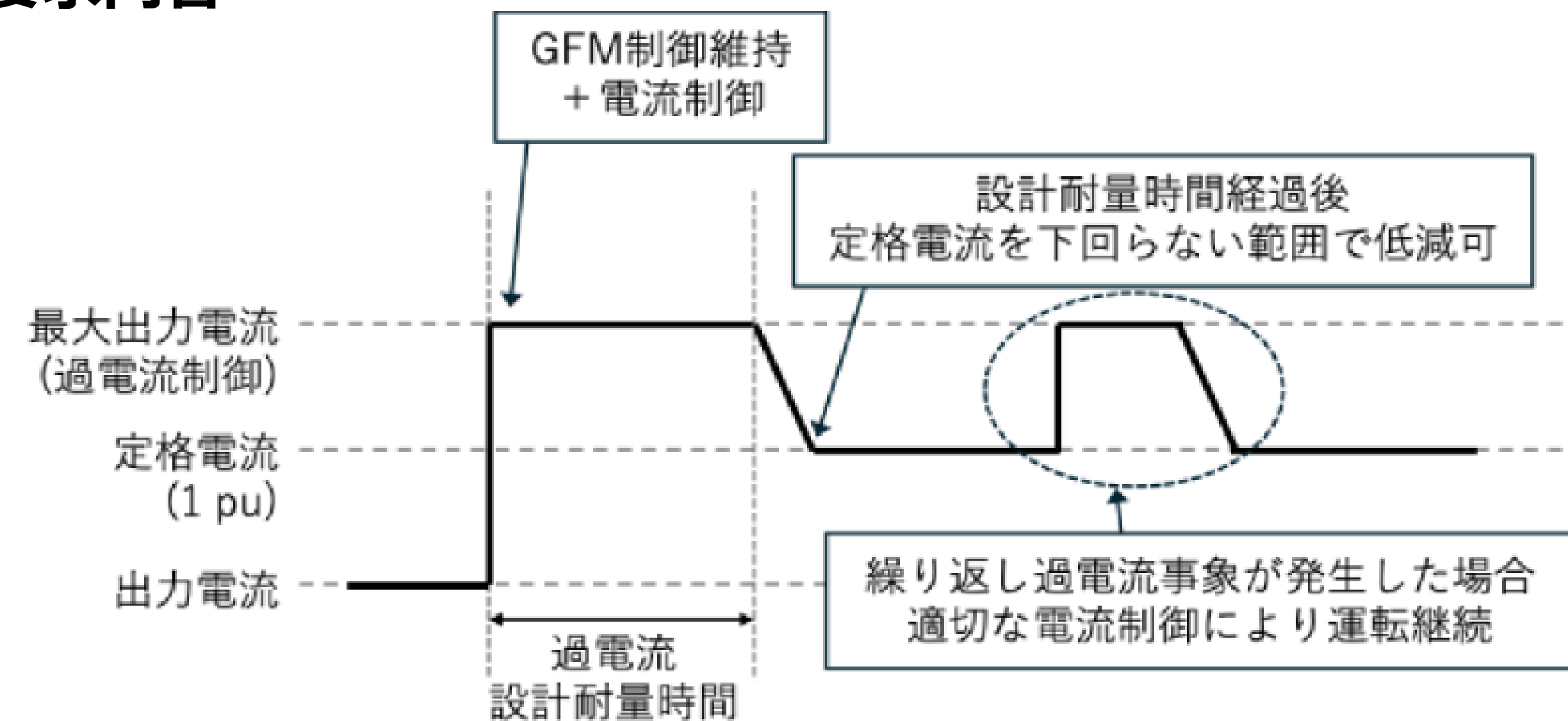
慣性低下対策PCSの要求仕様を整理・製作した試作機のラボ試験・模擬系統試験を通じて要求事項①の達成を確認

- | | | |
|---------|------------------|--------------|
| 【要求事項①】 | 周波数変動に適切に動作すること！ | 達成！！ |
| 【要求事項②】 | 不要にPCSが停止しないこと！ | 課題解決に向けて挑戦！！ |
| 【要求事項③】 | 公衆安全が確保されていること！ | |

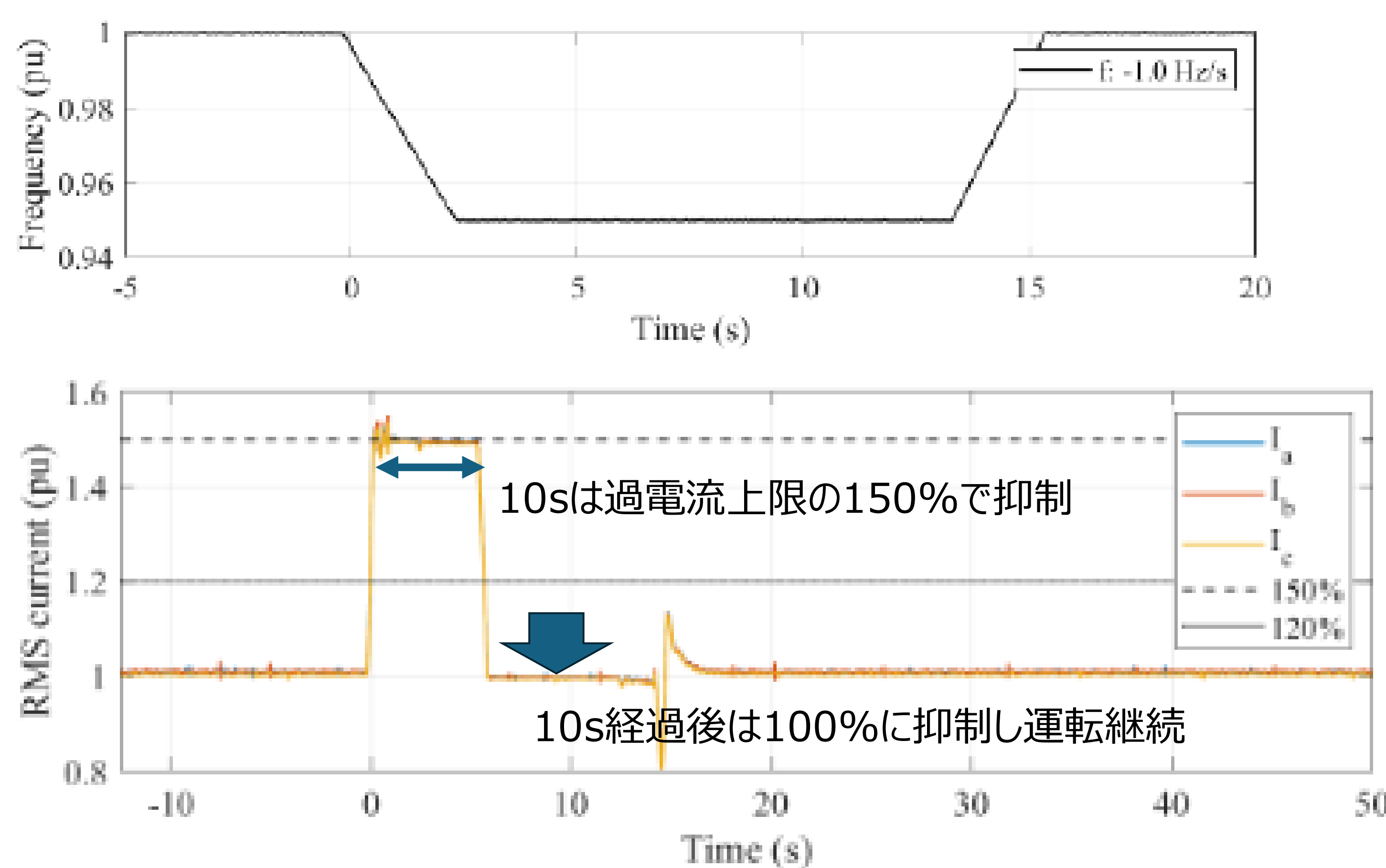
■ 2025年度の主な成果

要求事項②を更新、過電流の抑制の考え方を整理し、試作機にて実装を確認した。

■ 要求内容



■ ラボ試験結果



■ 課題と今後の取組

課題

要求事項③についてPVなどが連系されている条件で単独運転検出が不能のため未達成。（2026年度の試験において単独運転検出成功したため、結果を整理中）

今後の予定

- 要求仕様案の整理について
✓各種試験結果やシミュレーション検討結果などを踏まえ、本事業における要求仕様案を取りまとめる
- 試験機の開発について
✓課題の残るGFMの単独運転検出と慣性機能の両立について、検討を継続する

■ 実用化・事業化の見通し

事業にて整理した要求仕様・試験法の素案をもとに規程類の整備等を経て実用化される見通し

